

石卷専修大学

本年4月、
創立30年を
迎えました

イベントには舛井ゼミが参加する高大産連携プロジェクト「Pepper社会貢献プログラム」も参加。2台のPepperが石巻市に関するクイズや調理クイズを出題し、来場者を楽しませた。

中国の学生とディスカッションする大友さん

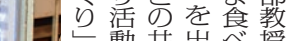
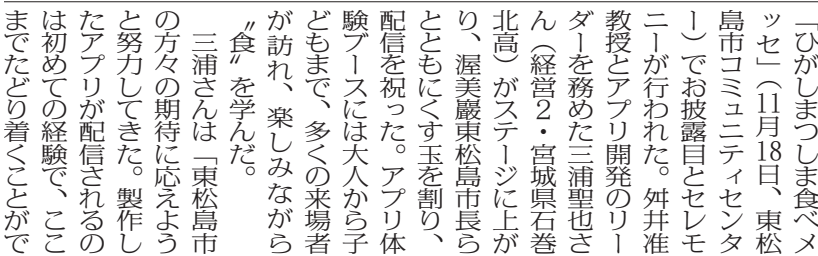
温州大学では中国語と経営戦略を主に学んでいます。中国語は教科書読解、リスニング、スピーキングはもちろん、教科書の中文和訳にも力を入れています。最近の授業では自分の故郷について紹介し、どう感じたかをディスカッションしています。

驚いたのは日本のアニメ、映画、テレビ番組、音楽などサブカルチャーや観光地に興味を持っている学生が多いこと。外国語として日本語を選択する学生は他の言語よりも多いです。なかには私よりも日本のアニメに詳しい人もい

ます。

現在は寮で他の外国人留学生たちと生活しています。近所の商店街を散策したり、地元の食を体験したり。中国の言語、文化、風土を学ぶことに時間を費やしていますが、同時に自国と比べて何が違うのか、なぜ違うのかを考えさせられます。日本の良いところ、悪いところを見つめ直す良い機会になっています。

中国で生活し、一番強く感じるのは現地の人たちの優しさ。機会があれば留学や短期研修などで、一度は中国を訪れてほしいと思います。



山内武巳人間学部教授も「ひがしまつしま食ベメッセ」でブースを出展。花王株式会社との共同研究「健康づくり活動を生かした地域づくし」



の成果を展示し、健康チ
エックを行った。

握力の三つを測定し、健康状態を確認するもので、多くの来場者が足を止め、通常とは異なる健康診断を体験した。山内教授は「イベントは高齢者や子ども連れの方が多く、直接話を伺うことができ、勉強になった。今後も地道に研究を続け、地域に貢献できればと考えている」と話した。

4年次生が 就活体験談

したさまざまな進路支援をもらった。千葉美沙季さんがイギリスが行われている。11月22日には「先輩たちの就職活動体験談」が5号館で行われ、内定を得た4年次生35人が就

を取った。千葉美沙季さん（人間3・宮城県岩手）は「インターンシップに参加したり、業界研究を進めたりしてきたが、先輩からのアドバイ

基礎の理解が応用につながる

理工学部情報電子工学科

本田秀樹 教授

専門は電力システム工学。電力システムを安定的かつ効率的に運用する方法を研究している。近年は自然条件の影響を受ける再生可能エネルギー電源の利用が進み、電力ネットワークの周波数および適正電圧の維持がより難しくなっている。また、電力小売り自由化、都市部への需要密集などから広域的な均一サービスの維持が困難になりつつあり、こういった課題の解決を目指している。

講義では電磁気学を担当している。クーロンの法則、電気と磁気の相互作用である電磁誘導、電磁波といった物理現象の解説はもと

化、都市部への需要密集などから広域的な均一サービスの維持が困難になりつつあり、こういった課題の解決を目指している。

より、工学技術者として社会で活躍するために必要な直流、交流回路などの基礎知識の習得を念頭に、授業を展開している。

実験方法を説明する本田教授(中央)



躍するために必要な直流、交流回路などの基礎知識の習得を念頭に、授業を展開している。

学生たちには基礎をしっかりと固め、幅広く、多くのことにチャレンジしてほしい。電磁気学の講義がそうであったように、決して難しい式を覚える必要はない。基礎を理解していればさまざまな場面で応用できる。これは全ての学問、社会生活に言えることである。



多くの3年次生が参加し、
熱心に耳を傾けた

なく、先輩たち
に質問し、
不安を解消し
てほしい。

伊豆沼で野外実習

宮城県北部のラムサー
ル条約登録湿地・伊豆沼
され、3年次生8人が参
加した。

で、理工学部食環境学科食品工学コースの野外実習が12月1、2日に実施 かまぼこの硬度を測定する学生たち	伊豆沼は近年、特定外来生物のオオクチバスなどが増加し、生態系の単純化など環境問題が生じている。今回の実習は、外来魚を資源と捉え、地域
--	---

の特産品にすることができなにかを検証する本学ならではのユニークな取り組み。オクチバスをかまぼこに加工し、味や硬度、食感などを調べた。

秋元直輝さん（宮城県多賀城高）が「において硬さが気になった。材料や手順を変えてもあまり良い結果が得られず、商品開発の難しさを感じた」と話す一方、阿部浩之さん（秋田県角館高）は「泥臭いイメージのオクチバスも、かまぼこに加工することで臭みは気にならなくなった。課題は多いが、実習で測ったデータをもとに商品化につながる研究を続けた」と今後の取り組みに意欲を見せた。

た」と話す一方、阿部浩之さん（秋田県角館高）は「泥臭いイメージのオクチバスも、かまぼこに加工することで臭みは気にならなくなった。課題は多いが、実習で測ったデータをもとに商品化につながらる研究を続けたい」と今後の取り組みに意欲を見せた。